

2026年 渋谷教育学園幕張 算数（第1回）

過去3年の思考コード別出題割合は次のようにになります（Aは基礎的な知識・技術、Bは論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。出題分野は例年通りで、数に関する問題、場合の数、水そうグラフ、平面図形、立体図形でした。例年に比べると、取り組みやすい印象を受けましたが、ハードな問題であることには変わりありません。得点できる問題を取っておきつつ、時間をかけたい分野を見極めることが大切です。



大問1は、数に関する問題でした。(1)、(2)はルールを正しく把握できていれば解答できます。どちらも落とせません。(3)は「約数の個数」に注目します。約数の個数が10個だけでなく、9個（平方数）の場合も含まれる点に注意します。このとき、「100」は含まれない点にも注意します。(2)まで取っておき、(3)は後回しでもよいと思います。

大問2は、場合分けして調べる問題でした。もれや重複なく調べる力が問われ、差が付いたと思いません。(1)、(2)は、「力」に入る数に注目して、それぞれのマスに入る数を調べてきます。「力」に入る数は、(1)「3」「4」、(2)「1」「2」「3」「4」となります。どちらも正解したいです。(3)、(4)は対象となるマスの組み合わせが、「アイウ」「アエカ」「ウオカ」となります。(3)は和が「3」か「4」になります。(4)は、(3)で考えたことを利用して調べます。(3)、(4)は後回しでもよいと思います。

大問3は、渋幕頻出の水そうグラフの問題でした。(1)は、水そうを正面から見た図に置き換えて、仕切られた各部分の満水までの時間を整理します。(1)は取っておきたいです。(2)も水そうを正面から見た図に置き換えて整理します。「A管だけ」「B管だけ」「A管とB管」で水を入れた部分に注目します。(3)は、見送ってもよいと思います。

大問4は、図形の回転でした。(1)は確実に得点します。(2)①は、(1)で求めたことを利用して、半径のわからない扇形の面積を求めます。(2)①は回転させた図が描ければ、あとは答えが出たも同然です。(2)②は図に表すのが難しく、見送ってもよいと思います。

大問5は、立体の問題でした。(1)、(2)は、「3つの立体にわかれる」ため、のり面の付け方に注意します。(3)は、いわゆる普通の立体の切断でした。

今年も大問1から重たい問題が並びました。時間をかけるべき問題をしっかり見極めることが大切です。大問1(1)(2)、大問2(1)(2)、大問3(1)(2)、大問4(1)(2)①、大問5(1)(2)(3)①はキッチリ取っておきたいところです。